応用生態工学会ニュースレター　No.72
Ecology and Civil Engineering Society（ECESJ）

2016（平成 28）年 5 月 25 日（水）発行

〔発行所〕　応用生態工学会事務局　〒102-0083　東京都千代田区麹町 4-7-5　麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL:03-5216-8401 FAX:03-5216-8520　E-mail: eces-manager@ecesj.com　HP：http://www.ecesj.com/

〔発行者〕　応用生態工学会（編集責任者：幹事長　藤田乾一，事務局長　小川鶴蔵）

1　はじめに ····· 1
2　第 20 回大会（20 周年記念東京大会）開催案内 ····· 2
3　第 10 期委員会委員決まる ····· 11
4　2016 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告 ····· 13
5　行事開催案内 ····· 14
　5.1　第８回全国フィールドシンポジウム in 仙台 ····· 14
　5.2　第３回北信越事例発表会 ····· 16
　5.3　フィールドシンポジウム in 櫛田川 ····· 18
6　第５回遠賀川中島自然再生研究会 開催報告 ····· 20
7　理事会・幹事会報告 ····· 23
8　2016 年度行事経過と今後の予定 ····· 27
9　事務局より ····· 28

1　はじめに

2016 年度、初めてのニュースレターをお届けいたします。

第 20 回大会（20 周年記念東京大会）の開催案内

研究発表の受付を開始しました。**研究発表申込と研究発表要旨原稿提出の期限は６月 30 日（木）**です。なお、**研究発表申込及び研究発表要旨原稿提出について、昨年までとは変更があります**のでご注意ください。

研究発表では、従来どおり研究成果の報告だけでなく、現場で抱えている課題や問題提起、プロジェクト提案等を自由に発表できます。また、テーマを絞って議論ができるよう、分科会や自由集会を準備いたします。議論したいテーマをお持ちの方からのユニークな分科会・自由集会の企画・提案をお待ちしております。また、今大会では、前回大会に引き続き、賛助会員による機材、技術等の展示コーナーを設けます。その申込み受付も始めました。

公開シンポジウムのテーマは「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー」、エクスカーションでは渡良瀬遊水地等を見学するコースを予定しています。どうかご期待ください。

鬼怒川災害調査報告会が開催されました

昨年９月10日に発生した鬼怒川の決壊に鑑み、応用生態工学会では、会長からの特命による「会長特命鬼怒川災害調査団」（団長：中村太士北海道大学教授、副団長：島谷幸宏九州大学教授）を結成しました。生態学、河川工学、地形学など様々な専門分野の会員29名が公募により調査団を編成し、昨年10月29日に茨城県常総市を中心として現地調査を実施しました。

調査団では、調査結果に基づいて「平成27年関東・東北豪雨を踏まえた鬼怒川での河川工事計画への提言」を取りまとめ、本年２月10日に国土交通省水管理・国土保全局に提出しました。

さらに、本年４月27日には、調査団主催による鬼怒川災害調査報告会が東京大学農学部中島董一郎記念ホールにおいて開催され、会員に対して調査の経過と調査結果について報告が行われるとともに、災害に対する学会のあり方について会員間で議論が行われました（参加者は48名）。

今後、調査団において報告書が取りまとめられ、会長に提出される予定です。

また、理事会・幹事会においては、災害対応班を中心に、今回の鬼怒川災害調査の取り組みをもとに、学会としての災害対応のあり方について検討を進めていきます。

これまでの動きを含めて詳細については、次号以降のニュースレターで報告します。

２　第 20 回大会（20 周年記念東京大会）開催案内

応用生態工学会　第 20 回大会（20 周年記念東京大会）開催案内

2016 年（平成 28 年）９月２日（金）～９月５日（月）

第 20 回総会・研究発表会・自由集会・分科会（特定テーマ・セッション）・公開シンポジウム･エクスカーション

応用生態工学会では，2016 年（平成 28 年）９月２日（金）～９月５日（月）に東京大学農学部にて第 20 回大会（20 周年記念東京大会）を開催します．

本大会実施に向け，大会参加と研究発表の受付を開始します．６月 30 日（木）が研究発表申込と研究発表要旨原稿提出の期限です．20 回目の節目の大会でもありますので，どうか奮ってお申込みください．なお，**研究発表申込及び研究発表要旨原稿提出について，昨年までとは変更がありますのでご注意ください**．

研究発表では，従来どおり研究成果の報告だけでなく，現場で抱えている課題や問題提起，プロジェクト提案等を自由に発表できます．また，テーマを絞って議論ができるよう，分科会や自由集会を準備いたします．議論したいテーマをお持ちの方からのユニークな分科会・自由集会の企画・提案をお待ちしております．また，今大会では，前回大会に引き続き，賛助会員による機材，技術等の展示コーナーを設けます．その申込み受付も始めました．

９月４日（日）には，公開シンポジウム「気候変動下における自然と地域社会のレジリエンスー応用生態工学の新たな展開ー」を開催します．その第１部では，応用生態工学はこれまで生態学・工学の間の学際領域に新しい視点をもたらしてきたことから，その評価と今後の課題について，辻本会長及び谷田前会長に工学及び生態学の視点からお話しいただきます．第２部では，今後応用生態工学は社会学・経済学等とも連携し，総合化を図ることが，自然環境の保全と人間の暮らしの調和という課題に対し果たすべき役割であると考えられることから，工学・生態学・社会学等の多様な視点から地

域のレジリエンスについて４名の方にお話しいただきます．これらを踏まえ，第３部のパネル討論では，フロアとともに応用生態工学の新たな展開を議論し，地域社会への貢献の方策を探ります．このシンポジウムは河川基金の助成を受けて実施し，一般にも公開します．

エクスカーションは９月５日（月）に渡良瀬遊水地等を見学するコースを企画中です．詳細は後日お知らせします．

なお，本大会は，土木学会継続教育（CPD）プログラム認定に申請予定です．

１．大会概要

【日程】

第１日目　９月２日（金）：研究発表（ポスター発表），分科会，自由集会
第２日目　９月３日（土）：研究発表（口頭発表），分科会，自由集会，懇親会
第３日目　９月４日（日）：午前:役員会・総会，午後:公開シンポジウム
第４日目　９月５日（月）：エクスカーション

―スケジュールは変更することがあります．詳細なスケジュールは，ホームページ（７月下旬），ニュースレター No.73（７月下旬発行）でご案内します．―

【会場】

研究発表･総会･公開シンポジウム:

東京大学弥生講堂及び農学部1号館

住所:〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
URL:http://www.a.u-tokyo.ac.jp/yayoi/map.html

＜交通＞

【地下鉄】
東京メトロ　東大前駅（南北線）　徒歩１分
東京メトロ　根津駅（千代田線）　徒歩８分

【都バス】
御茶ノ水駅（JR 中央線、総武線）より
茶 51 駒込駅南口又は東 43 荒川土手操車所前行
東大（農学部前バス停）下車徒歩１分

２．公開シンポジウム

【テーマ】

気候変動下における自然と地域社会のレジリエンス－応用生態工学の新たな展開－

【企画のねらい】

応用生態工学が目標とする「人と生物の共存」「生物多様性の保全」「健全な生態系の持続」を実現するためには，地域における自然環境の保全と人間の暮らしを調和させる必要がある．一方で，地球温暖化に伴う豪雨災害が多発し，それに伴って国土強靭化が叫ばれ，昨年 11 月には気候変動適応策が閣議決定された．このような状況に対して，環境と地域社会のレジリエンスを高めることが未来を見据えた重要なテーマとなっている．応用生態工学はこれまで生態学・工学の間の学際領域に新しい視点をもたらしてきたが，今後は社会学・経済学等とも連携し，総合化を図ることがこの課題に対する応用生態工学の果たすべき役割であると考えられる．本シンポジウムは応用生態工学

会 20 周年記念大会のハイライトとして，この応用生態工学の新たな展開を議論し，地域社会への貢献の方策を探る機会とする．

【プログラム（案)】

9 月 4 日（日）

13：00　開会　趣旨説明

13：10

第１部　（応用生態工学の評価と課題）

1）辻本哲郎　応用生態工学会会長

2）谷田一三　前応用生態工学会長

第２部　（新たな視点と連携）

1）島谷幸宏（九州大学教授）

2）西廣　淳（東邦大学准教授）

3）広田純一（岩手大学教授）

4）宮内泰介（北海道大学教授）

第３部　（パネルディスカッション）

15：30　パネルディスカッション

コーディネーター：中村太士（北海道大学教授）

パネリスト：第２部登壇者＋行政関係者等

17:00　終了予定

【会場】

東京大学農学部弥生講堂

３．研究発表募集

第 20 回大会における研究発表の受付けを開始します．発表方法は，「ポスター発表」と「口頭発表」とします．下記要領に基づき応募してください．なお，**今大会では「研究発表申込」と同時に「研究発表要旨原稿」（Ａ４版１ページ）を提出していただきます**.

〔１〕研究発表内容

応募できる研究発表の内容は，応用生態工学に関する研究や事例の報告およびその他です．発表の内容が，現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ，研究報告が予報的な内容であっても構いません.

〔２〕発表方法

応募にあたっては，「ポスター発表」か「口頭発表」のいずれを希望するか明記してください．応募状況によっては，大会実行委員会で変更をお願いする場合もあります.

〔３〕発表時間

口頭発表の発表時間は，１課題当たり 15 分(発表 12 分,討論 3 分）程度で，申込数により決定します.

〔４〕研究発表申込・研究発表要旨原稿提出

研究発表申込と研究発表要旨原稿提出は，６月 30 日（木）17:00 までを厳守してください.

研究発表は，以下の内容について，応用生態工学会ホームページまたは電子メールでお申し込みください．また，同時に研究発表要旨原稿（Ａ４版１枚）を大会事務局へ提出してください．原稿は，応用生態工学会ホームページの研究発表要旨原稿サンプルを参考に作成してください.

なお，ポスター作成要領，口頭発表要領および関連スケジュールを 7 月下旬に応用生態工学会ホームページにアップロードする予定です.

大会事務局の電子メールアドレス：tokyo_20th@ecesj.com

＜申込記入事項＞

1. 発表者名（フリガナ）および連名者名（フリガナ）と各々の所属（会員番号）
   （会員番号：連名者が非会員である場合，番号は不要）
2. 研究発表題目
3. 連絡先（〒，住所，氏名，TEL，FAX，E-mail）
4. 研究発表概要（和文 200 字程度）
5. 希望する発表形態（「ポスター発表」または「口頭発表」）
6. 研究報告・事例報告の別
7. キーワード（調査地域・調査対象を含め５つ程度）
   ［調査地域（例）］
   河川，湖沼，ダム貯水池，汽水域，海域，森林，水田，畑地，道路，都市，農村等
   ［調査対象（例）］
   生態系・景観，陸上植物，陸上動物，水生植物，底生動物，プランクトン，鳥類，魚類等
8. 発表賞の審査対象となる希望の有無
   発表賞の審査対象になることを希望するか否かをお知らせください.
   なお，審査対象要件は以下のとおりです.
   1）若手研究者（学部学生，大学院生，ポスドク等の若手会員）
   2）現場技術者または行政担当者
   ※研究報告・事例報告の別を問わず，過去に最優秀発表賞の受賞歴がある方は発表賞の審査対象になることはできません.
   ※登壇者が変更になった場合は審査対象から除外されます．受付に申し出てください.

提出いただいた概要をもとに発表の振り分けを開始いたしますので，簡潔かつ具体的な研究内容を可能な限り明示してください.

後日，大会事務局より受付および「ポスター発表」か「口頭発表」の確認連絡をいたします.

＜研究発表要旨原稿作成要領＞

研究発表要旨は，例年どおり大会要旨集として発行します．また，大会終了後には要旨集を学会ホームページに掲載いたします.

研究発表要旨については査読を行いません．要旨集にもその旨を記載いたします.

・Ａ４版用紙，縦位置，１枚

・余白：左右 15mm，上下 18mm
・横一段組み，中央に「講演題目」を和文にて，14 ポイントの文字，2 行以内で記入.
・題目の下１行空け右寄せで「講演者名，連名者名，各々の所属」を，12 ポイントの文字で記入.
・本文は，10 ポイント・明朝.
・原稿はそのまま印刷できるイメージの PDF ファイルとして作成し，E-mail に添付して tokyo_20th@ecesj.com 宛にお送りください．なお，印刷はモノクロです.

〔５〕研究発表者資格

研究発表者は，応用生態工学会の正会員，学生会員および賛助会員法人に所属する個人とします．なお，連名者については会員・非会員を問いません．ただし，研究発表者が学生の場合には，連名者に会員がいれば可とします.

〔６〕発表賞

ポスター発表，口頭発表のそれぞれを対象とします．9 月 4 日（日）午前中に開催される総会の終了後に表彰を行います.

Call for Presentations

Submission of presentations is now open for the 20th Annual Meeting of the Ecology and Civil Engineering Society (ECES) in Tokyo. Categories of presentations are either research reports, case studies or other topics in the field of ecology and civil engineering. Two types of presentation, poster or oral, are acceptable in English along with Japanese. Please submit your presentation in line with the following guidelines.

[1] Topics

Acceptable presentations should be research reports and case studies on topics in relation to ecology and civil engineering. Preliminary research reports will be also acceptable, if they are applicable to various fields of ecology and civil engineering.

[2] Presentation types

Please notify your preferred presentation type (poster or oral) in your submission. Note that we might ask you to change your presentation type (poster or oral).

[3] Duration of oral presentation

Each oral presentation would be ca. 15 minutes long (12 minutes for presentation followed by a 3-minute discussion period).

[4] Application for oral or poster presentation

Deadline of submission: 17:00 (JST) , 30 (THU) June , 2016

To apply for presentation: Please email the following information for application form with your presentation abstract file (1 sheet of A4 paper)

together to the Ecology and Civil Engineering Society (ECES) (tokyo_20th@ecesj.com). Please refer to the abstract sample posted on the ECES website. Instruction for poster & oral presentation and related schedules will be uploaded on the ECES website on the end of July.

<Required items on the application form>

1. Full name of a presenter, his or her professional affiliation and membership number. If the presenter has co-authors, full names of all co-authors, their professional affiliations and membership numbers (if they have) should also be written.
2. Title of presentation
3. Contact address of a presenter:
   Postal and e-mail addresses, tel. & fax. numbers
4. Summary of presentation in 7 lines or 150 words
5. Preferred type of presentation (poster or oral)
6. Category of presentation (research report, case study)
7. Keywords (about 5 words relating to study sites and materials as listed below)
   Study sites: Rivers, lakes, reservoirs, brackish waters, seas, forests, paddy fields, dry farmlands, roads, urban areas, rural areas, etc.
   Materials: Ecosystem and landscape, terrestrial plants, terrestrial animals, aquatic plants, plankton, benthic animals (invertebrates), birds, fishes, etc.
8. Application for the Presentation Award
   Please let us know whether you will apply for the Presentation Award or not.
   Presentation Award qualifications:
   1) Young society members (undergraduates, graduate students, or postdocs etc.)
   2) Field technicians or administrative officers
   -Note that members who won the Best Presentation Award at past ECES meetings cannot apply for the Presentation Award.
   -If presenter is changed, please let us know as soon as possible. The presentation will be out of grading.

Presentations will be sorted into designated sessions based on the contents of submitted summaries. The summary should be made brief and specific for the purpose. The notification of acceptance and the designated presentation type (poster or oral) will be informed by the secretariat of ECES later.

<Instructions for presentation abstracts>

Presentation abstracts will be issued as an ECES meeting booklet. After the meetings, the contents of the booklet will be posted on the ECES website.

The secretariat will not review abstracts.

・Please use 1 sheet of A4 paper.
・Right and left margins should be more than 15 mm, and top and bottom margins should be more than 18 mm.
・The title of your presentation should be one column and centered. The length of the title should be within 2 lines and the font size should be in 14 points.
・Full names of the presenter and co-authors with their affiliations should be inserted right-aligned after inserting one blank column below the presentation title. The font size should be in 12 points.
・The main text should be in 10 points. The font should be representative Roman such as Times New Roman.
・Please submit a camera-ready manuscript which includes figures and tables. Please send a PDF of the manuscript as an e-mail attachment to tokyo_20th@ecesj.com. The Printing of manuscript letters should be in black.

[5] Qualification of presenters

Presenters at oral sessions and a main contributor at poster sessions should be the ordinary member, student member or any people belonging to the supporting member company of the ECES (co-authors need not be ECES members). However, presentations by students who are not ECES members are also acceptable if at least one of their co-authors is an ECES member.

[6]Presentation awards

The Ecology and Civil Engineering Society (ECES) confers "Presentation Awards" at the Annual Meeting to excellent posters and oral presentations. Winners of the Awards will be announced after a general meeting held in September 4 (Sun), 2016.

４．分科会・自由集会企画募集

今大会でもテーマを絞って議論を深めるために，分科会や自由集会の企画を募集します．議論したいテーマをお持ちの方は積極的にお申し出ください．なお，会場数及び開催時間帯は限られていますので，お早くご連絡ください（平成28年6月30日（木）まで）．なお，今大会では会場数に限りがあることから，申込状況により大会事務局において調整させていただく場合があります．

また，昨年までの自由集会では，参加者から資料配布の要望が寄せられています．集会当日に配布資料をご用意されることを推奨いたします．

（連絡先）E-mail: tokyo_20th@ecesj.com

５．エクスカーション

【企画のねらい】

気候変動に起因する豪雨災害への適応策の一つとして，遊水地，調節池，放水路が防災対策の役割を担っています．首都圏の代表的な遊水地，放水路である渡良瀬遊水地，首都圏外郭放水路，まちづくりの中に洪水調整機能をもたせた大相模調節池，それらの役割・機能について学ぶ予定です．また，渡良瀬遊水地では自然再生や水辺環境の保全・再生と地域振興・経済活性化の実現を目指すエコロジ

カルネットワーク形成等の取り組み，越谷レイクタウンでは自然再生の取り組みや低炭素社会の実現に向けたまちづくりについて学ぶ予定です.

【日程（案)】

9月5日（月）

9:30　JR 東北線（宇都宮線)，東武鉄道日光線　「栗橋駅」　集合

・渡良瀬遊水地（自然再生，水辺環境保全・再生，エコロジカルネットワーク形成等）

・首都圏外郭放水路（調圧水槽（地下))

・越谷レイクタウン（自然再生ゾーン，低炭素社会に向けた取り組み等）　を訪問予定.

16:30　JR 武蔵野線　「越谷レイクタウン駅」 解散

※定員は 40 名程度で，先着順とします.

詳細については，現在，企画を進めています．詳細が決まり次第，お知らせします.

６．懇親会

懇親会は，第２日目９月３日（土）の研究発表（口頭)，分科会，自由集会の終了後に行います．また，今回は 20 周年記念大会にあたり，毎回好評の「全国からのお土産（お酒・おつまみ)」コーナーに加え，20 周年記念企画も予定しておりますので，会員同士の交流・情報交換の場として，ぜひご参加ください.

【日時】

9 月 3 日（土）　18 時ごろから

【会場】

東京大学農学部３号館　生協農学部食堂（予定）

７．賛助会員の企業展示発表

【展示要領】

・企業案内，機材，技術等の展示

・ポスター展示用のボードパネル(高さ 180cm×幅 90cm×2 枚程度)と机(折りたたみ，横幅 180cm×奥行 45cm×高さ 70cm 予定)，説明員用イス 1 脚を準備する予定です．これ以外に電源等が必要な場合は，各自でご準備ください．パンフレットの配布も可能です.

・申し込み費用：無料

・展示期間：9 月 3 日（金）～9 月 4 日（土）の 2 日間

・場所：弥生講堂ロビー等

※　展示を希望する企業は，6 月 30 日（木）17:00 までに企業展示発表希望と明示し，企業名，展示内容（種別）を下記の申し込み先メールアドレス宛にお送りください．申込みが多数となった場合は，先着順とさせていただきます.

企業展示発表申込先：tokyo_20th@ecesj.com

８．大会参加費

〔１〕研究発表会

正会員・賛助会員：6,000 円，非会員：10,000 円，学生（学生会員･非会員)：3,000 円.

参加費には講演要旨集が含まれています．講演要旨集のみ希望の方には，3,000 円で販売します.

※大学内外には食堂・飲食店がありますが，別途 1,000 円でお弁当もご用意できます．必要な方

は事前にお申し込みください.

〔２〕エクスカーション

企画の詳細が決定次第，お知らせします.

〔３〕懇親会

正会員・賛助会員・非会員：5,000 円，学生（学生会員・非会員）：3,000 円（予定）

懇親会費は当日徴収いたしますが，人数を把握するため，事前にお申し込みください.

９．参加申込み方法

学会のホームページやチラシよりお申込みください.

詳細なスケジュールは，ニュースレターの次号（No.73，7 月下旬配信予定）やホームページでご案内いたします.

10. その他

・開会期間中の宿泊について，大会事務局として斡旋はいたしません．各自で手配をお願いします.

・9 月 2 日(金)は，11:00～20:00 まで，農学部内の食堂（３号館生協農学部食堂）の利用が可能です．また，9 月 2 日(金)～4 日(日)は，お弁当(1,000 円，お茶込み)の準備も可能です．必要な方は，大会参加申込時にお申し込みください.

※会場周辺には，食堂やコンビニエンスストアもあります.

11. お問い合わせ先

応用生態工学会事務局

〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-7-5　麹町ロイヤルビル 405 号室

TEL：.03-5216-8401　FAX：03-5216-8520

E-mail：tokyo_20th@ecesj.com

３　第 10 期委員会委員決まる

第 10 期の委員会委員が決まりました。各委員会には、理事会から担当役員１名が参画しています。委員の任期は 2018 年３月 31 日までの２年間です。

(1)会誌編集委員会

委員長（再任）：鎌田　磨人　　徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部
委　員（再任）：竹林　洋史　　京都大学防災研究所
（再任）：西　　浩司　　いであ(株)国土環境研究所，学会監事
（新任）：赤松　良久　　山口大学大学院理工学研究科，学会幹事
（再任）：池内　幸司　　国土交通省
（新任）：石山　信雄　　北海道大学大学院農学研究院
（再任）：一柳　英隆　　(一財)水源地環境センター
（再任）：井上　幹生　　愛媛大学大学院理工学研究科
（新任）：卜部　浩一　　北海道立総合研究機構水産研究本部さけます・内水面水産試験場
（再任）：大森　浩二　　愛媛大学沿岸環境科学研究センター，学会理事
（新任）：鬼倉　徳雄　　九州大学大学院農学研究院，学会幹事
（新任）：尾花まき子　　名古屋大学大学院工学研究科，学会幹事
（再任）：加賀谷　隆　　東京大学大学院農学生命科学研究科
（新任）：柿野　　亘　　北里大学獣医学部
（再任）：萱場　祐一　　国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ，学会理事
（新任）：河口　洋一　　徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部，学会副幹事長
（再任）：小出水規行　　国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究部門
（再任）：佐川　志朗　　兵庫県立大学自然・環境科学研究所
（再任）：田代　　喬　　名古屋大学減災連携研究センター
（再任）：東城　幸治　　信州大学学術研究院理学系，学会幹事
（再任）：堂薗　俊多　　国土交通省水管理・国土保全局，学会幹事
（新任）：永山　滋也　　国立研究開発法人土木研究所自然共生研究センター
（再任）：西廣　　淳　　東邦大学理学部，学会幹事
（再任）：根岸淳二郎　　北海道大学大学院地球環境科学研究院，学会幹事
（再任）：比嘉　基紀　　高知大学理学部
（再任）：星野　義延　　東京農工大学大学院農学研究院
（再任）：三宅　　洋　　愛媛大学大学院理工学研究科
（再任）：森　　誠一　　岐阜経済大学経済学部
（再任）：柳井　清治　　石川県立大学環境科学科
（新任）：山下　奉海　　九州大学持続可能な社会のための決断科学センター
（再任）：横山　勝英　　首都大学東京都市環境学部，学会幹事
（再任）：吉村　千洋　　東京工業大学大学院理工学研究科，学会幹事
担当役員（再任）：風呂田利夫　　東邦大学，学会理事

(2)普及・連携委員会

委員長（再任）：竹門　康弘　　京都大学防災研究所
委員（札幌・再任）：岩瀬　晴夫　　(株)北海道技術コンサルタント川づくり計画室

(仙台・再任)：佐藤　高広　(株)復建技術コンサルタント
(東京・再任)：久保市浩右　応用地質(株)地球環境事業部
(新潟・再任)：大川　重雄　(株)建設技術研究所北陸支社
(長野・再任)：元木　達也　(株)環境アセスメントセンター北信越支社
(富山・再任)：佐渡　正　舘下コンサルタンツ(株)
(金沢・再任)：澤　康雄　(株)国土開発センター環境事業部
(福井・再任)：高嶋　義和　ジビル調査設計(株)
(名古屋・再任)：関根　秀明　(株)建設技術研究所中部支社，学会幹事
(大阪・再任)：渡辺　敏　(株)ウエスコ関西支社
(岡山準備担当・再任)：藤谷　俊仁　(株)建設環境研究所
(広島・再任)：山原　康嗣　中電技術コンサルタント(株)環境部
(松山・再任)：川越　幸一　(株)建設環境研究所高松支店
(福岡・再任)：酒井　奈美　西日本技術開発(株)環境部
(那覇・再任)：宮良　工　(株)沖縄環境地域コンサルタント

市民連携担当委員
(再任)：中井　克樹　滋賀県立琵琶湖博物館
(再任)：森　誠一　岐阜経済大学経済学部
(再任)：吉冨　友恭　東京学芸大学環境教育研究センター
担当役員(再任)：渡辺　綱男　(一財)自然環境研究センター，学会理事

(3)国際交流委員会
委員長(再任)：根岸淳二郎　北海道大学大学院地球環境科学研究院，学会幹事
委　員(新任)：VONGTHANASUNTHORN Narumol　佐賀大学大学院工学系研究科
(新任)：笠原　玉青　九州大学大学院農学研究院
(新任)：小林　草平　京都大学防災研究所
(新任)：田島　淳　応用地質(株)地球環境事業部
(再任)：傳田　正利　国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ
(新任)：渡辺　幸三　愛媛大学大学院理工学研究科
(再任)：吉村　千洋　東京工業大学大学院理工学研究科，学会幹事
担当役員(新任)：渡邊　康玄　北見工業大学，学会理事

(4)情報サービス委員会
委員長(再任)：沖津　二朗　応用地質(株)応用生態工学研究所，学会幹事
担当役員(再任)：成田　賢　応用地質(株)，学会理事

(5)技術援助委員会
委員長(再任)：江崎　保男　兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科，学会副会長
委　員(再任)：関島　恒夫　新潟大学大学院自然科学研究科，学会理事
(再任)：高村　典子　国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター
(再任)：渡邊　康玄　北見工業大学，学会理事
担当役員(再任)：角　哲也　京都大学防災研究所，学会理事

(6)将来構想委員会
委員長(再任)：中村　太士　北海道大学大学院農学研究院
委　員(再任)：浅見　和弘　応用地質(株) 地球環境事業部
(再任)：田代　喬　名古屋大学減災連携研究センター
(再任)：西　浩司　いであ(株)国土環境研究所，学会監事

（再任）：根岸淳二郎　北海道大学大学院地球環境科学研究院，学会幹事
（再任）：三宅　洋　愛媛大学大学院理工学研究科
担当役員（新任）：角　哲也　京都大学防災研究所，学会理事
(7)テキスト刊行委員会
委員長（新任）：河口　洋一　徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部，学会副幹事　長
委　員（新任）：尾花まき子　名古屋大学大学院工学研究科，学会幹事
（新任）：関根　秀明　(株)建設技術研究所中部支社，学会幹事
（新任）：根岸淳二郎　北海道大学大学院地球環境科学研究院，学会幹事
（新任）：皆川　朋子　熊本大学大学院先端科学研究部，学会幹事
担当役員（新任）：萱場　祐一　国立研究開発法人土木研究所水環境研究グループ，学会理事
(8)事務局改善ワーキンググループ
委員長・担当役員（新任）：森北　佳昭　(一財)水源地環境センター，学会理事
委　員（再任）：浅見　和弘　応用地質(株)地球環境事業部
（再任）：久保田　勝　東北電力(株)，学会監事
（新任）：杉本　龍志　(株)建設技術研究所東京本社
（再任）：堂薗　俊多　国土交通省水管理・国土保全局，学会幹事
（再任）：西　浩司　いであ(株)国土環境研究所，学会監事

４　2016 年度海外学会等への派遣者の選考結果報告

国際交流委員会

国際交流委員会では、2016 年度の海外学会等への派遣員の募集を行いました。2016 年２月 22 日から３月 31 日までを募集期間として、学会ホームページ、ニュースレター、メーリングリストによる募集を行った結果、２名の研究者(大学院生を含む。）から応募がありました。

その後、４月に開催した国際交流委員会において、応募者２名の応募内容を規定の選考基準で審査し、下記のとおり派遣者１名を選考しました。

派遣者：三浦一輝（北海道大学大学院環境科学院）

派遣先：Society for Freshwater Science Annual Meeting 2016 （アメリカ、サクラメント）

学会開催日：2016 年５月 21 日～26 日（口頭発表有り）

助成額：20 万円

５　行事開催案内

5.1　第８回応用生態工学会全国フィールドシンポジウム in 仙台

『都市河川 名取川水系の自然と再生　～東日本大震災 5 年後～』

2016 年（平成 28 年）7 月 1 日（金）～7 月 2 日（土）

シンポジウムおよびフィールドツアー

応用生態工学会全国フィールドシンポジウム第 8 回目となる今回は、6 年ぶり(平成 22 年 7 月に実施)に仙台で開催します。

趣旨：平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により発生した津波により、東北の太平洋側の沿岸部は甚大な被災を受けた。宮城県仙台市・名取市等を流れる名取川および広瀬川からなる名取川水系では、河口部を含めて津波による被災を受けたが、震災から 5 年が経過し、復旧工事が進み、生態系も回復しつつある。

以上を踏まえて、名取川流域における土砂移動、水質および生物多様性の保全と再生に関するさまざまな取り組みを紹介するとともに、震災前後の社会環境の変化も踏まえた上で、市民、行政、学識者等が問題点を共有し、土砂移動および環境の多様性をどう理解し、どのように行動すべきかを議論する。また、我が国が人口減少社会へ向い始めた状況下で様々な課題が顕在化してくる現状を踏まえ、社会基盤の一部を構成する生物多様性基盤の保全・再生は今後どのような方向が望ましいのか探る。

主催：応用生態工学会
協賛：(一社)東北地域づくり協会・東北環境アセスメント協会
後援：国土交通省東北地方整備局・ 仙台市・(一社)建設コンサルタンツ協会東北支部
実施主体：応用生態工学会仙台

【1 日目：シンポジウム 7 月 1 日（金)】

13：00　開会　趣旨説明

13：10～14：50　基調講演(50 分×2 名)※演題は予定です。

1)　「名取川における河川・海岸行政について」：畠山愼一(東北地方整備局河川部長)

2)　「名取川河口の地形変化―津波前後の相違に着目して―」：田中仁(東北大学大学院工学研究科　教授)

15：00～16：20　一般講演(20 分×4 名) ※演題は予定です。

1)　「広瀬川創生プラン」について：杉井智一(仙台市建設局百年の杜推進部河川課 広瀬川創生室 室長)

2)　「大地震が名取川河口汽水域の水産資源に与えた影響とその再生過程」：伊藤絹子(東北大学大学院農学研究科　助教)

3)　「名取川流域の生態系の未来」：風間聡(東北大学大学院工学研究科　教授)

4)　「釜房ダムの水質について」：梅田 信(東北大学大学院工学研究科　准教授)

16：25～17：25　意見交換会　座長 占部城太郎(東北大学大学院生命科学研究科　教授)

17：30　閉会

18：30～懇親会　(会場：仙台市内)

[シンポジウム会場]

日立システムズホール仙台（仙台市青年文化センター）

住所:〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘 3-27-5

URL:http://sendaiycc.jp/

＜交通＞

◆地下鉄でご来館の方

市営地下鉄南北線

仙台駅から泉中央方面行き 10 分、「旭ヶ丘駅」下車、東 1 番出口より徒歩 3 分

◆バスでご来館の方

市営バス

バス停「地下鉄旭ヶ丘駅」より徒歩 2 分

◆お車でご来館の方(駐車場；100 台（8:30～22:15）２時間まで 200 円、以後 30 分 50 円)

〇東北自動車道「仙台宮城 I.C.」を降り、仙台北環状線経由約 30 分

〇東北自動車道「泉 I.C.」を降り、国道 4 号線、県道仙台泉線経由約 30 分

【2 日目：フィールドツアー 7 月 2 日（土)】

8：30	仙台駅集合・出発
9：00～10：00	名取川河口　砂州の形状・河川堤防・周辺生態系の観察
10：30～11：15	広瀬川中流部
11：50～	昼食
14：00～15：30	釜房ダム　巡視船による湖観察・ダム資料館でダムの説明
16：30	仙台駅解散

※フィールドツアー行程は予定であり、変更が生じる可能性があります。

■参加費：

シンポジウム：無料

フィールドツアー：バスとお弁当で 一律 2,000 円程度

懇親会費：一律 5,000 円程度

■定員：シンポジウム：150 名 フィールドツアー：40 名程度

■参加申込方法：下記事項を明記の上、E メールで takahiro@sendai.fgc.co.jp 宛にお申込みください。

・所属

・氏名・連絡先

・応用生態工学会会員（会員番号)・非会員一般・非会員学生

・参加内容（シンポジウム・フィールドツアー・懇親会)

※フィールドツアーでは海岸や川沿いを観察しますので、汚れても良い靴・服装をご準備ください。

【申込み〆切】

・シンポジウム・フイールドツアー：6 月 25 日(土)

※資料・バスの準備の都合上、既にお申込みの方のキャンセルの場合は、恐れ入りますが 6 月 25 日までにご連絡をお願いいたします。直前のキャンセルの場合は資料代を頂戴いたします。

■申込・お問い合せ先：応用生態工学会仙台事務局 佐藤高広

Eメール：takahiro@sendai.fgc.co.jp Tel:022-217-2026（(株)復建技術コンサルタント都市・環境部）

※本シンポジウムは（一社）建設コンサルタンツ協会の CPD 認定プログラムです。

7/1：3.00 単位、7/2：3.25 単位、当日受講証明書配布

5.2　第３回北信越事例発表会

「応用生態工学会　第3回　北信越事例発表会」

事例発表大募集！

～大会に気兼ねしている人，気軽にご参加ください～

日　時　：　平成２８年１１月１1日(金)　　９：３０～１７：１０

会　場　：　富山県立大学　大講義室　　富山県射水市黒河5180

〔1〕発表資格

発表者は，応用生態工学会の会員・非会員を問いません．ただし，発表者が非会員の場合は，連名者に正会員および賛助会員法人に所属する個人が1名以上いることとします．

〔2〕発表内容

発表に応募できる講演内容は，応用生態工学に関する事例報告，研究報告およびその他です．当該発表の内容が，現場のさまざまな事業・活動にどのように応用できる知見であるかに触れていただければ，報告が基礎的内容であってもかまいません．また，分野は河川系のみではなく，申込記入事項キーワードに示すようにあらゆるフィールドを対象とします．

〔3〕発表方法

発表は，次の3種とします．いずれを希望するか明記してください．応募状況によっては，実行委員会で変更をお願いする場合もあります．

(1) **一般口頭発表**：研究報告・事例報告等内容は問わず，全国大会と同様の内容とします．

(2) **審査対象口頭発表**：原則として事例報告とします．審査委員会による事前審査，発表後の審査を経て表彰の対象とし，発表時間，討論時間も長くとっています．学会誌への投稿を目標とされている発表や優秀な発表は，希望があれば発表論文内容の向上に関して，審査員が相談・指導に応じます．

(3) **ポスター発表**：ポスター発表は発表要旨を提出する必要はありません．なお，要旨集に掲載を希望される場合は，口頭発表と同様に発表要旨を提出してください．

〔4〕発表時間

発表時間は以下のとおりとしますが，いずれも発表数により変更する場合があります．

(1) **一般口頭発表**：１課題当り20分（発表12分，討論8分)程度

(2) **審査対象口頭発表**：１課題当り30分（発表15分，審査員質疑7分，一般討論8分)程度

(3) **ポスターセッション**：コアタイム 13：00 ～ 14：00 の１時間

〔5〕発表申込　（9月 2日（金）まで)

発表を申し込まれる方は，以下の内容を記入したE-mailをお送りください．

－ 申 込 記 入 事 項 －

① 発表者名(フリガナ)および連名者名(フリガナ)と各々の所属（会員番号）
（発表者がわかるように、●等で明示してください）
（会員番号：発表者・連名者が非会員である場合，番号は不要）

② 発 表 題 目

③ 連　絡　先　（〒、住所、氏名、TEL、FAX、E-mail）

④ 発 表 概 要　（和文 200 字程度）

⑤ 希望する発表方法 （「一般口頭発表」or「審査対象口頭発表」or「ポスター発表」）

⑥ 事例報告，研究報告，その他 の別

⑦ キーワード　（対象地域・対象生物を含め 5 つ程度）

［対象地域の例］　河川,汽水域,湖沼,海域,森林,水田,畑地,道路,都市,農村,公園等

［対象生物の例］　生態系,陸上植物,陸上動物,水生植物,底生動物,鳥類,魚類等

提出いただいた概要をもとに発表の振り分け，順序を決定いたしますので，簡潔かつ具体的な内容を可能な限り明示してください．後日事務局より受付及び発表方法の確認連絡をいたします．

〔6〕発 表 要 旨

原稿の提出は 10月11日（火）17：00 までを厳守してください．

発表者は，発表要旨原稿（Ａ４版２頁or４頁）を 期日までに事務局へ提出．原稿は下記の要領に従って作成してください．

なお，発表要領および関連スケジュールを，１０月20日（木）に発表者にメールで連絡いたします．

― 発表要旨原稿作成要領 ―

発表要旨については査読を行いません．要旨集にもその旨を記載いたします．

・Ａ４版縦，２頁又は４頁
・左右 15mm以上，上下 18mm以上余白
・横一段組み，中央に「講演題目」を和文にて，14 ポイント程度の文字，２行以内で記入
・題目の下１行空け右寄せで「講演者名，連名者名，各々の所属」を 12 ポイント程度の文字で記入
・本文は，10.5 ポイント・明朝
・原稿はそのまま印刷できるイメージの PDF ファイルとして作成し，E-mail に添付して eces-toyama@ne-con.co.jp 宛にお送りください．

なお，原稿はカラーも可としますが，要旨集は白黒印刷いたします．

※ 要領は，学会全国大会と同じ内容となっています．

〔7〕発　表　賞

審査対象口頭発表を対象として，優秀と認められる発表について表彰いたします．

審査の観点は，応用生態工学会としての将来的な発展性・応用性・有効性・プレゼン力(説明資料等わかりやすさ)などとします．表彰式は意見交換会において行います．表彰対象者は意見交換会に招待いたします．会場は富山駅前の地鉄ホテルです．

【全ての送付先・問い合わせ先】

◇応用生態北信越大会実行委員会事務局◇

〒930-0175 富山県富山市願海寺633 大日本コンサルタント（株）内 （担当：竹澤）

TEL：076-436-7855 FAX：076-436-7997　E-mail：eces-toyama@ne-con.co.jp

5.3　フィールドシンポジウム in 櫛田川

応用生態工学会名古屋

１．概要

応用生態工学会名古屋では、学会会員（賛助会員・個人会員）などを対象に、環境について語り合う「フィールドシンポジウム」を企画しました。フィールドシンポジウムは、櫛田川（三重県）の現地見学と話題提供者を中心にした意見交換を行うものです。多くの方々のご参加を期待しています。

２．企画主旨

櫛田川は、大アユの産地として名高い香肌峡を始めとする良好な漁場を多く有し、近代には大正天皇に献上した記録も残るなど、かつてアユ漁で有名な河川でした。また、その氾濫原には、古代から中世後期にかけて整備された条里制の水田が今も残存し、中流から分派する祓川やそれに連なる用排兼用灌漑水路などを含めた氾濫原水域の連続性が残されています。しかし近年では、様々な理由により、水域連続性の維持において課題を抱えています。こうした事情に鑑み、国土交通省やその他管理者、および地域住民の参加などにより櫛田川の縦断的連続性や、堤内地の用水路における魚類生息環境の保全･再生に向けた取り組みとして、地域と連携した環境保全活動に努め、関係機関との調整や検討を進めていく「櫛田川自然再生計画書」に基づき設立された「櫛田川自然再生推進会議」により地域との活動が進められています。

今回企画するフィールドシンポジウムでは、櫛田川の現状や自然再生事業の実施状況などを現地見学を踏まえて意見交換することで、応用生態工学会員はじめ参加者の環境に対する興味の高揚・共有を図ります。

３．シンポジウムの日程等

(1) 開催日

平成 28 年 7 月 25 日（月）　※少雨決行

(2) 全体工程　※今後行程内容に変更の可能性があります

9:00 ～ 12:00　現地見学（櫛田川下流自然再生事業箇所と氾濫原、関連施設など）

13:00 ～ 16:00　シンポジウム（話題提供、総合討論）

(3) 開催場所・集合時間等

1) 終日参加の場合

集合場所：JR 松阪駅（近鉄松阪駅）近鉄口（海側）

集合時間：8:30

移動手段：貸切バス

参加人数：定員約 40 名

参加費用：500 円（交通費、バス乗車時保険費等）

持 ち 物：弁当、飲み物（必須）、長靴（路面状態が悪い箇所を歩く場合があります）

終日参加される方の集合場所（8:30 集合）

2）シンポジウムのみ参加の方

集合場所：開催場所に直接お越しください

開催場所：津商工会議所（津市丸之内 29-14　電話 059-228-9141）

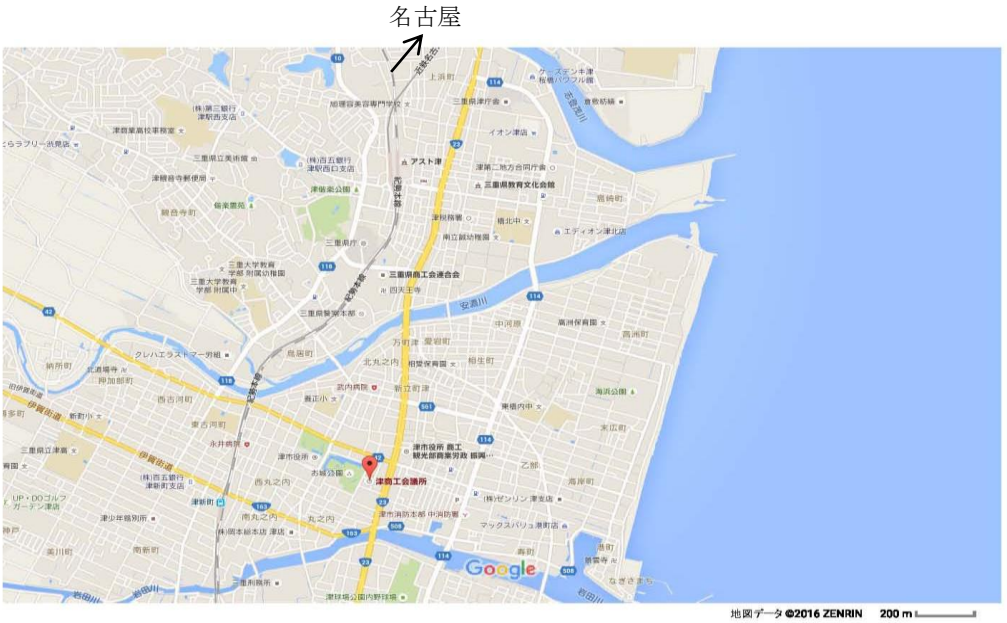
開催時間：13:00

話題提供：田代喬（名古屋大学准教授）、北村淳一（三重県総合博物館）　ほか

コメンテーター：辻本哲郎（名古屋大学名誉教授）

参加人数：定員約 50 名

参加費用：無料



シンポジウムから参加される方（13:00）

(4) 参加申込み（事前）

① 申込み方法

「現地見学・シンポジウム参加申込」と題して、氏名・年齢・住所・連絡先（電話・FAX または E-mail アドレス）・終日参加／現地見学のみ参加の別 を記した FAX または E-mail を下記の連絡先までお送りください（書式自由）。

名古屋大学大学院工学研究科
社会基盤工学専攻水工学講座（担当：尾花）
TEL:052-789-4628，FAX:052-789-3727
E-mail:d42882a@cc.nagoya-u.ac.jp

※シンポジウムのみ参加の方は事前の参加申込みは必要ありません。

※氏名以外の個人情報は、バス乗車時の保険を掛ける際に必要です。忘れずにお願いします。なお、個人情報は上記以外に使用しないほか、事後に消去します。

② 申込み期限

平成 28 年 7 月 15 日（金）

※定員になり次第締め切る場合があります。

(5) 注意事項

・現地見学から参加される方は動きやすい服装・履物でご参加ください。
・交通事情等により時間が前後する可能性があります。
・天候や現地の状態により、現地見学を中止する可能性があります。開催の有無については下記問い合わせ先にご連絡ください。

(6) その他（問合せ先）

本会の詳細、現地見学会の開催の有無、その他事前問い合わせ

連絡先　メール：sekine@ctie.co.jp（建設技術研究所　関根）
電　話：080-1022-5089（関根）

６　第５回遠賀川中島自然再生研究会 開催報告

応用生態工学会福岡　酒井 奈美（西日本技術開発(株)）

応用生態工学会福岡の取り組みとして、2015 年 11 月に開催しました遠賀川中島自然再生研究会についてご報告いたします。

＜遠賀川中島について＞

中島は、九州北部、一級河川遠賀川の下流に位置する中州で、国土交通省による遠賀川中島自然再生事業の対象地です。自然再生事業では、遠賀川の流域や河川で失われた湿地を創出し、多様な生物が生息する河川環境を再生することを目的に、掘削による湿地の再生やヨシ原の保全などを行い、次世代に引き継ぐ未来の遠賀川の川づくりが行われています。

＜遠賀川中島自然再生研究会の概要＞

応用生態工学会福岡では、平成23年度から「遠賀川中島自然再生研究会」を立ち上げ、国土交通省遠賀川河川事務所より中島自然再生事業箇所を研究フィールドとして提供いただき、学会員を中心とする研究会メンバーにより、応用生態工学的な研究を進めています。本研究会は、異分野の研究者同士の交流が促進されることに加え、得られた成果を行政や市民の方にも知ってもらうことで、地域の自然環境の改善や学会の普及に繋げることを主な目的としています。研究会では、年に1回の研究発表会を開催しているほか、必要に応じて現地視察や湿地改良の助言などの取り組みを行っています。

遠賀川中島自然再生研究会　役員（敬称略）

会長：島谷 幸宏（九州大学）副会長：荒井 秋晴（九州歯科大学）

顧問：故　小野 勇一（九州大学名誉教授）事務局：応用生態工学会福岡

会員の主な所属：大学・研究機関・国土交通省・市民団体・コンサルタント・財団法人

主な研究分野：魚類・二枚貝・植物・水生昆虫・哺乳類

＜第5回研究会内容＞

■現地視察

【日　時】平成 27 年 11 月 26 日（木）10：30～12：00

【場　所】遠賀川中島自然再生事業地（湿地域）【参加人数】16 名【参加費】無料

【開催概要】研究会の開催に先立ち、研究会の主要メンバーで中島の現地を視察しました。植生遷移に伴うヨシやオギ等の自然植生の再生、湿地の一部陸化や今後の利活用等の課題も確認しました。また、研究会の助言で試験施工した湿地改良箇所（素掘りの水たまり・クリーク等）では、メダカの幼魚やトンボ類の幼虫、タコノアシ等の湿生植物がみられ、現場でできる小さな湿地創出の効果を確認しました。

現地視察の様子

■研究会

【日　時】平成 27 年 11 月 26 日（木）13:30～16:30

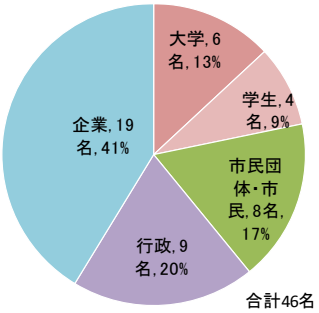
【場　所】遠賀川水辺館　めだかホール【参加人数】46 名【参加費】無料

【プログラム】（敬称略）

1. 開会挨拶　（中島自然再生研究会会長　九州大学　島谷幸宏）
2. 中島自然再生事業の概要（遠賀川河川事務所河川環境課　白井耕平）
3. 研究・活動発表

・中島におけるヌマガイの分布調査経過報告（九州大学 林博徳）

・中島におけるほ乳類の生息状況（西日本技術開発(株)　金尾充浩（共同研究者　故九州大学名誉教授 小野勇一））



研究会参加者の所属別内訳

・中島の植物相 2014-2015（福岡教育大学 福原達人・上原博子）
・中島のモニタリング結果及び湿地改良箇所の状況（遠賀川河川事務所・西日本技術開発(株)酒井）
・水生生物に着目した中島氾濫原湿地再生の評価（熊本大学 皆川朋子・福岡県保健環境研究所 中島淳・福岡大学 伊豫岡宏樹）
・中島自然再生協議会活動状況報告（中島自然再生協議会(タブリン)　岸本武記）

4. 意見交換（参加者全員でのフリーディスカッション）
5. 閉会挨拶（島谷幸宏）

【開催概要】5年目の節目となる今回の研究会では、過去最多となる46名、産学官民さまざまな分野の方に参加いただきました。研究・活動発表では、様々な希少動植物生息する豊かな自然環境が形成されながらもまだ遷移の途中段階であること、過剰繁茂したヒシの除去や湿地改良としての水域創出の効果、市民活動等についての報告、議論がなされました。意見交換では、今後の持続的な利活用の促進を踏まえた中島自然再生事業のあり方や、自然再生研究会の課題・運営方法等について活発な意見が飛び交い、中島自然再生協議会の皆様からは、市民と研究者の貴重な交流の場として機能している本研究会の継続について熱烈なご要望もいただきました。最後に、島谷会長から「中島は小野先生の発案がきっかけでスタートしたプロジェクトであり、産炭地として一度真っ黒になり傷ついた遠賀川の生態系を、少しでも色々な生き物が棲み、流域全体の生き物が集まってくるような場所にしようということで、バイオダイバーシティという言葉を作られました。皆で先生の遺志を継ぎ少しでも前進できればと思います」との挨拶があり、今後の研究会の継続に向け、産学官民の更なる連携を進めていくことでまとまりました。

研究会の様子

＜今後の予定＞

本研究会はどなたでも参加できる会です。研究会の聴講、研究の参加ともにお待ちしております。2016年度の研究会の開催案内は学会メーリングリストでお知らせしますので、ぜひご参加ください。

【お問い合わせ先】応用生態工学会福岡　酒井（n-sakai@wjec.co.jp）

7　理事会・幹事会報告

7.1　第 68 回幹事会報告

第 68 回幹事会が 2016 年２月 18 日に学会事務局において開催され、第 82 回理事会、第 83 回理事会に付議する事項について審議を行った。

また、日本海洋学会から沿岸環境関連学会連絡協議会（応用生態工学会を始め、13 の学会・学会委員会が参画）に対して、小学校理科第４学年単元として「海を考えよう」の新設について中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会理科ワーキンググループ主査あてに共同提案したいとの打診があったことへの対応について審議を行い、応用生態工学会としては賛同を見送ることとした。

7.2　第 82 回理事会報告

次回の３学会合同大会（ＥＬＲ）の開催計画について審議するために、第 82 回理事会が 2016 年２月 24 日（水）～29 日（月）にメール会議にて開催された。

審議の結果、次回の３学会合同大会について、開催時期に関しては次回大会の幹事学会（日本景観生態学会）からの提案どおり 2017 年開催とし、日程に関しては 2017 年９月 23～25 日を要望することが了承された。

なお、2016 年５月 17 日に３学会合同大会実行委員会が開催され、次回の３学会合同大会は 2017 年９月 22 日（金）～25 日（月）に名古屋大学において開催されることが決定した。

7.3　第 83 回理事会報告

第 83 回理事会が、2016 年４月５日（火）に東京都千代田区麹町の弘済会館において開催された。

（１）報告事項

各委員会の活動状況、本年３月 15 日（土木学会水工学講演会時）に開催された第４回の河川砂防技術基準（調査編）をもとにした意見交換会の概要のほか、鬼怒川災害調査の経過について報告があった。

鬼怒川災害調査の経過報告に関して、報告と意見交換の概要は次のとおり。

○萱場理事（応用生態工学会鬼怒川災害調査団長）から、鬼怒川災害調査の経過について、以下のとおり報告があった。

・2014 年９月 20 日（第 18 回東京大会時）の第 62 回幹事会・第 73 回理事会において災害対応体制の整備に関する議論が行われ、これを受けて理事会・幹事会の「特命班１（災害対応特命班）」にて災害対応のあり方、対応方法について検討している途上において、昨年９月９～11 日の平成 27 年９月関東・東北豪雨により９月 10 日に鬼怒川災害が発生。

・このため、昨年９月 12 日（第 19 回郡山大会時）の第 66 回幹事会・第 80 回理事会において、急遽、審議事項「応用生態工学会における災害時の対応」を設定し、鬼怒川災害への対応について審議。

理事会では、次の事項を確認。

「応用生態工学会鬼怒川災害調査団」を編成し、調査、報告、提言案作成にあたること
調査団編成にあたり、必要に応じて学会名で民間企業への委嘱をすること
関係機関との調整において、学会名で依頼文等を作成すること
経費については、助成金への申請のほか、学会の予算から支出すること
提言書を作成することになった場合には、改めて理事会で審議すること

・昨年 10 月 29 日、応用生態工学会鬼怒川災害調査団が現地調査を実施。調査団員（会員 27 名）のうち 16 名が参加。
調査団員は、メーリングリスト等により募集。団長：萱場理事、副団長：西廣幹事・山田浩之北大講師。
・昨年 11 月、「応用生態工学会会長特命鬼怒川災害調査団」を結成。団長：中村太士北大教授、副団長：島谷幸宏九大教授。
・本年１月 31 日、会長特命鬼怒川災害調査団が「平成 27 年関東・東北豪雨を踏まえた鬼怒川での河川工事計画への提言」を取りまとめた。この中では７項目の提言を行っている。
２月 10 日に中村団長から国交省水管理・国土保全局長に提言を提出。
・昨年９月の第 80 回理事会では、「応用生態工学会鬼怒川災害調査団」においては「速報の作成」までを行うこととしていたが、災害後に河川整備計画の策定が急がれており、また、緊急掘削の計画が立案されるタイミングを考えると、早く国交省に提言を提出した方がよいとの判断があり、会長特命の調査団として提言の取りまとめと提出まで行った。
この提言は関東地整と下館河川事務所に回付され、計画立案にあたって参考とされている。

〇萱場理事から、今後の予定について以下のとおり説明があった。
・本年４月８日に会長特命鬼怒川災害調査団ミーティングを開催し、今後の方針等について検討。
・本年４月 27 日に会長特命鬼怒川災害調査団の主催にて会員に対して鬼怒川災害調査報告会を開催。
この報告会では、調査の経過や提言について報告するとともに、報告書の内容案、災害対応に関する今後の進め方などについて会員と議論を行う。

〇経過報告を受けて、今回の鬼怒川災害への対応、今後の検討の方向などについて意見交換を行った。主な意見と議論は以下のとおり。
・今回の提言が河川工事においてどのように反映されたか、フォローアップを実施していってほしい。
・今回の調査は学会としての社会的貢献であり、調査団の活動と今後のフォローアップについて、学会として取り上げて学会誌などにおいて会員に伝えていくことが必要。
・理事会・幹事会の「特命班１（災害対応特命班）」において災害対応のあり方について検討する中では、土木学会との連携についても検討していたが、今回の調査では土木学会との直接的な連携は行わず、応用生態工学会単独の調査とした。
これは、鬼怒川の地理に明るいこと、環境面の調査では災害直後に現場に入る必要がなかったこと、加えて、土木学会の調査は災害の現象面の把握といった面が強く、応用生態工学会とはややスタンスが異なっていることによる。
・鬼怒川の河床低下と今後の河床掘削を応用生態工学的にどのように捉えるかについては、現地調査において河床低下に伴う高水敷の乾燥化が進んでいることを共通認識として共有し、高水敷の掘削により湿地的環境を再生できること、また、保全上重要な場所があることから、これらについて提言の中で取り上げた。
・災害調査においては学術的視点から客観的に災害を把握することが大切であり、その上で、人為的インパクトに伴うレスポンスを生態学的な側面より取り上げ、応用生態工学的な対応、すなわち、災害復旧に活かすための提言等を行うことが重要。
災害を把握するためには、土木学会、自然災害協議会等との議論も必要だろう。今後は、他学会とも連携を図りながら、災害の把握につながる活動を行うことも必要である。
また、行政への提言だけでなく、パブリックに対する情報発信も行うことも重要である。

このようなプロセスについて、学会内で様々な分野のメンバーが参画して議論することが重要であり、本年４月８日の調査団ミーティング、４月 27 日の報告会においては、会員間で広く議論を行ってほしい。

・災害への対応にあたっては、何を目的にするのかという整理、コンセンサスが重要であり、また、学会としての意思表示ともなるので、広く学会としての議論を行うことが必要。

・「提言」と言うと、時間あるいは調査の内容、目的等との関係において重いものがあるのではないか。
過去の他河川の災害では、行政に対して災害復旧にあたって配慮すべき環境保全上の要点を押さえたアドバイスが行われたことが極めて有効であった。

・会長特命鬼怒川災害調査団の任務は、報告書の取りまとめをもって終わる。
報告書の性格付けをどのようにするか、すなわち、科学的なデータに基づいて客観性をもたせた書き方にするのか、それとも、もう少し踏み込んで治水方式などを含めたものとするのかについては、本年４月 27 日の報告会において広く会員から意見をいただく予定。

○以上の意見交換を踏まえて、今後、次の取り組みを行っていくこととした。

・会長特命鬼怒川災害調査団の報告書を受けて、今回の災害調査結果について学会としての認識とするのであれば、調査団メンバーだけの議論ではなく、理事会・幹事会の「災害対応班」を中心に学会としての議論が必要。

・理事会・幹事会の「災害対応班」では、今回の鬼怒川災害調査の取り組みをもとに学会としての災害への対応のあり方について検討を行い、災害に対するミッションとフローを明確にする。

（２）審議事項

次の４件について審議が行われた。

①次期各委員会委員の委嘱

・本年４月からの第 10 期の各委員会構成について、このニューレターの「３　第 10 期委員会委員決まる」のとおり了承された。

②理事－幹事担当制の各担当班の体制

・理事－幹事担当制の各担当班の体制（理事会・幹事会内での担当分野）について、昨年９月の第 19 回総会において役員が改選されたことに伴い、新たな体制に関して、次ページの表のとおり確認された。

・これまで特命班として、東日本大震災を含む大規模災害からの復旧と環境保全・復元の課題についてアドホックベースで取り組むために「特命班１（災害対応特命班）」を置いてきたが、今後、「災害対応班」として活動することが了承された。
また、学会で解決すべき課題についてアドホックベースで取り組む必要が生じた場合には、これまでどおり特命班を組織することが確認された。

③第 20 回大会（20 周年記念東京大会）の計画

・今年の第 20 回大会（20 周年記念東京大会）の計画について、大会実行委員会と幹事会において検討を進めている企画案が了承された。

④ISE 2018 への参画計画

・渡邊康玄理事（ISE2018 運営委員）から、2018 年８月に日本大学理工学部において開催される ISE 2018（12th International Symposium on Ecohydraulics）について、企画進捗状況の説明と、応用生態工学会に対する支援協力要請があり、ISE 2018 に対して後援することが了承された。
また、具体の参画計画について、国際交流委員会において検討を進めることとされた。

理事－幹事担当制 各担当班の構成

2016年4月5日 第83回理事会において確認

		財政・組織運営班	学術成果総括活動班	研究活動奨励班	技術援助活動班	広報班	全国活動運営班	国際交流／ICLEE対応班	中期計画対応班	災害対応班
会長	辻本　哲郎									
副会長	江崎　保男			◎(新任)	◎(新任)〔技術援助委員長〕					
副会長	國井　秀伸						○(新任)			
副会長	虫明　功臣									
理事	大森　浩二			〔会誌編集委員〕						
理事	萱場　祐一		◎(新任)〔テキスト刊行委員会担当役員〕	〔会誌編集委員〕						○(新任)
理事	木内　　啓	○(新任)								
理事	甲村　謙友								○(再任)	○(新任)
理事	島崎　由美					◎(再任)			○(再任)	
理事	清水　義彦									◎(再任)
理事	角　　哲也				○(再任)〔技術援助委員会担当役員〕				◎(再任)〔将来構想委員会担当役員〕	
理事	関　　克己						◎(再任)			
理事	関島　恒夫		○(再任)		○(再任)〔技術援助委員〕					
理事	成田　　賢					○(再任)〔情報サービス委員会担当役員〕				
理事	風呂田利夫			○(再任)〔会誌編集委員会担当役員〕						
理事	森北　佳昭	◎(新任)〔事務局改善WG委員長／担当役員〕								
理事	山室　真澄							○(新任)		
理事	渡辺　綱男						○(再任)〔普及・連携委員会担当役員〕			
理事	渡邊　康玄				○(再任)〔技術援助委員〕			◎(新任)〔国際交流委員会担当役員〕		
監事	久保田　勝	〔事務局改善WG委員〕								
監事	西　　浩司	〔事務局改善WG委員〕		〔会誌編集副委員長〕					〔将来構想委員〕	
幹事長	藤田　乾一								回(新任)	
副幹事長	河口　洋一		回(新任)〔テキスト刊行委員長〕	□(新任)〔会誌編集委員〕	□(新任)〔河砂技術基準意見交換会メンバー〕					
幹事	赤松　良久			〔会誌編集委員〕					□(新任)	
幹事	沖津　二朗					回(新任)〔情報サービス委員長〕				
幹事	鬼倉　徳雄			〔会誌編集委員〕						
幹事	尾花まき子		□(新任)〔テキスト刊行委員〕	〔会誌編集委員〕			□(新任)			
幹事	関根　秀明		□(新任)〔テキスト刊行委員〕				回(新任)〔普及・連携委員〕			
幹事	東城　幸治			回(新任)〔会誌編集委員〕						
幹事	堂薗　俊多	回(新任)〔事務局改善WG委員〕		〔会誌編集委員〕						
幹事	中村　敏一				回(再任)〔河砂技術基準意見交換会メンバー〕					
幹事	西廣　　淳			〔会誌編集委員〕	□(再任)〔河砂技術基準意見交換会メンバー〕				□(再任)	□(再任)
幹事	根岸淳二郎		□(新任)〔テキスト刊行委員〕	〔会誌編集委員〕				回(新任)〔国際交流委員長〕	□(新任)〔将来構想委員〕	
幹事	皆川　朋子		□(新任)〔テキスト刊行委員〕							□(新任)
幹事	横山　勝英			〔会誌編集委員〕						回(再任)
幹事	吉村　千洋			〔会誌編集委員〕				□(新任)〔国際交流委員〕		
各担当班が連携する委員会		事務局改善WG委員長：森北 佳昭	テキスト刊行委員長：河口 洋一	会誌編集委員長：鎌田磨人	技術援助委員長：江崎保男	情報サービス委員長：沖津 二朗	普及・連携委員長：竹門康弘	国際交流委員長：根岸淳二郎	将来構想委員長：中村太士	

◎：各担当班の主担当理事、○：副担当理事
回：各担当班の主担当幹事、□：副担当幹事

参考：〔　〕書きは、各担当班が連携する委員会での役職

８　2016 年度行事経過と今後の予定

4.1	2016年度（平成28年度）開始
4.5	第83回理事会　(麹町：弘済会館)
4.6～25	国際交流委員会（メール会議）、2016年度海外学会等への派遣者決定
4.22	第１回テキスト刊行委員会　(麹町：応用生態工学会事務所)
4.26	第20回大会（20周年記念大会）第２回実行委員会　(東京大学工学部)
4.27	鬼怒川災害調査報告会　(東京大学農学部中島董一郎記念ホール)
5.25	ニュースレター72号 発行
6月	会誌編集委員会編集幹事会
6月	会誌「応用生態工学」Vol.19－1 発行
7.1～2	第８回全国フィールドシンポジウムin仙台 「都市河川 名取川水系の自然と再生～東日本大震災５年後～」 7月1日（金）：シンポジウム　(日立システムズホール仙台) 7月2日（土）：フィールドツアー　(名取川・広瀬川・釜房ダム)
7.4	第20回大会（20周年記念大会）第３回実行委員会　(東京大学工学部)
7月	第69回幹事会　(麹町：応用生態工学会事務所)
7月	ニュースレター73号 発行
7.25	フィールドシンポジウムin櫛田川 櫛田川現地見学とシンポジウム　(櫛田川、津商工会議所)
8月	第84回理事会
9.2～5	応用生態工学会第20回大会（20周年記念東京大会）（東京大学弥生講堂・農学部１号館） 9月2日（金）：研究発表（ポスター発表）、分科会、自由集会 9月3日（土）：研究発表（口頭発表）、分科会、自由集会、懇親会 9月4日（日）：午前/総会、午後/公開シンポジウム 9月5日（月）：エクスカーション
9.2～4	大会期間中に、第70回幹事会、第85回理事会、各委員会を開催
10.8	第２回ミュージアム連携ワークショップin大阪　(須磨海浜水族園)
10.28～29	第15回北信越現地ワークショップin新潟 (新潟市新潟日報メディアシップ日報ホール)
10月～11月	応用生態工学会福井 地域勉強会
10月～12月	遠賀川中島自然再生研究会　(直方市)
11.11	第３回北信越事例発表会　(富山県立大学)
12月	ニュースレター74号 発行
12月	第71回幹事会　(麹町：応用生態工学会事務所)
12月	会誌「応用生態工学」Vol.19－2 発行
2月	ニュースレター75号 発行
2月	第86回理事会
3.31	2016年度（平成28年度）終了

９　事務局より

9.1　勤務先等の会員情報変更登録のお願い

年度初めは会員の皆様には、就職や人事異動、転居など、会員の皆様の情報が変化する時期です。会誌 19−1 も近々発刊の予定です。例年、少なからず宛所に会誌が届かず、返送されています。会員情報の変更をお忘れ無くお願いいたします。

変更登録は、ホームページのトップ画面右上の「入退会･登録変更・購読」バナーから入り、「会員登録情報変更フォーム」から入力して、送信してください。

また、下記 URL で「会員登録情報変更フォーム」へ直接接続することもできます。

http://www.ecesj.com/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=change

会員情報変更のご連絡は、学会事務局のアドレス、e-mail eces-manager@ecesj.com　にメールをいただくことでも可能です。

9.2　既刊学会誌を希望する会員に頒布します（郵送料は負担してください）

学会事務局では、現在、書類整理を進めています。その中では、学会誌の在庫が棚を占める割合が多いことから、これの整理に取りかかりました。今後は一定の保管量を確保して、残りは希望者への頒布、廃棄を考えています。希望者多数の場合は、先着順です。ご案内期間は 8 月末日とさせていただきます。

希望される会員は、学会事務局のアドレス e-mail　eces-manager@ecesj.com までお知らせください。事務局では、申込者に郵送経費を計算してお知らせします。郵送料をいただいた後、発送します。

9.3　学会事務所に、Skype 機材を購入しました

委員会などの会議用に、Skype 機材を購入しました。学会事務局では Skype には登録しておりませんので、登録したパソコンをご持参のうえ、学会のネットを使ってご利用ください。

・・

〔２０１６年５月７日現在会員数〕

名誉会員	：	９名
正 会 員	：	９３２名
学生会員	：	１２２名
合　　計	：	１，０６３名

ＬＥＥ 購 読 者 数

正 会 員	：	８５名
学生会員	：	１名
名誉会員	：	１名
合　　計	：	８７名

賛助会員　：　３６法人（５３口）